

## 第2回 2019年度 全国公立入試 最新の出題傾向(理科・社会編)

■2019年度 全国の公立入試の総括を「教科別」に「特徴」・「難易度」・「注目点」に分けて説明します

教科	今年の入試の特徴	難易度(昨年との比較)	その他、注目点
理科	1つのテーマで複数の実験を展開していく問題が増えている。文章量は年々増加していて、読解力も問われるように。	物理・化学は落ち着いているが、生物・地学は難化が進む。特に地学は年々難しくなっている印象。	「完答で正解」の問題が全国的に増加。用語の説明や原理原則の説明をするものが増えていて、「正確な知識の理解」を重視する傾向が顕著に。
社会	県ごとの個性が強まった。今まで出題のない用語や初見のテーマ・記述など。典型題からの脱却が目立つように。	地理・歴史は特に大きな変化がないが、公民は出題形式や内容が定まらず、難易度もまちまち。	「書けそうで書けない」記述問題が増えているため、表現力強化も含めた記述対策が必須に。時事や移行措置内容に絡めた問題には今後も注意が必要。

■これから受験する皆さんへのアドバイス

**理科** 上記にもある通り「完答で正解」の問題が増加傾向にあります。そのため、中学校で学習した内容をすべて正しく覚えることが重要で、正確な知識が求められます。(しっかり覚えることが重要) また、毎年同様に中1・中2の学習内容も多く出題されているので、中1・中2の内容を忘れていないか、常に復習・問題演習することが必要です。中3生の場合、中3の内容は覚えていることが多いが、中1・中2の復習・演習までできないという人も多いのが現状なので、復習の計画をしっかり立て、その計画を確実に実行することが重要となります。



**社会** 正確な知識を必要とする問題が多数出題されています。また、記述式の多い県の問題では、単語は知っていてもそれをどう文章で記述したらよいか分からず、減点や失点につながる問題も多く出題されています。対応策としては、中1の最初の段階から社会を勉強できる環境を作る、塾の授業も受験勉強の一環となります。中3の7月までに「中1・中2の地理・歴史」の復習+問題演習が常にできる環境を作り実践する。また、中3の2学期以降は公民も入ってくるので、公民内容の理解(憲法、国会・内閣・裁判所、経済分野)と中2までの内容の演習を両立するための勉強をすることが社会で得点するためにやるべきこととなります。

理科と社会で共通して言えることは、「完答で正解」「正しいものをすべて選びなさい」といった複数解答の問題が確実に増えていることです。しっかりと「正確な知識をもつこと」とそれを自分で説明できる「説明力・表現力」を身に付けるための問題演習+暗記作業が何よりも必要になっています。

一部では「理科」「社会」は中3になってから復習するのでも間に合うという声も聞かれます。しかし、最新の入試傾向を見ると、悠長なことを言っている場合ではないのが現状です。中1～中3までの知識がまんべんなく出題されていますので、できるだけ早いうちから、「知識を蓄える」勉強が必要になることを忘れないようにしてください。

